

Sumitomo Mitsui Banking Corporation Brazil DAILY MARKET REPORT



Treasury Department

マーケットサマリー

先週末のドルレアルスポット相場は再び高値を更新し、一時2005年4月以来となる2.63台手前まで上昇。国営石油会社ペトロプラスが汚職事件に絡んで第3四半期決算の公表を延期させたことが影響した。決算公告には会計監査の承認が要求されるが、汚職事件に関する調査を徹底させることを理由に会計監査からの同意を得ることができなかつた。法律では決算期間終了後45日以内に公告をすることが定められており、期限を超過した場合は課徴金の支払いを要する(同社は過去にも2度決算公告の遅延が発生しているが、期限超過による遅延は初めて)。また、連邦警察は同社と取引先企業の契約について調査中であることを公表するとともに、同社元幹部を含む27人を汚職事件への関与疑惑で逮捕した。ペトロプラス株の取引は1時間以上遅延して開始された後、一時5%超まで急落(終値は前日比2.9%安)。ボベスパ株式指数も下落幅を拡大させたが、引けにかけては水準を取り戻し、前日比ほぼ変わらずでの引けとなつた。

ブラジル9月小売売上高は前年比0.5%増と予想をやや下回った他、10月雇用者数も1999年の統計開始以来初めて純減となり、足許の経済低迷が改めて浮き彫りとなつた。市場は次期財務相に企業寄りの人選が行われることを期待し、先週は一時的にレアル買いが進行する場面も見られたが、いかなる人選が行われようとも低成長・高インフレという経済体質を早期に転換させることは困難というのが現実であろう。次期財務相人事を巡る不透明感とファンダメンタルズの悪化を背景に、ドルレアルスポット相場は連日上昇を続けているが、これ以上のレアル安進行に歯止めをかけるため、中銀は為替介入プログラムにおけるロールオーバーの増額を決定した(12月償還予定のスワップロールオーバー額を従来の4.5億ドルから7億ドルへ拡大)。介入プログラムの変更はある程度予想されていたが、早いペースで進行するレアル安を抑制する効果は期待できる。また、12月COPOMにおいてどのような決定がされるか、引き続き注目したい。

マーケットデータ

Indicator	Unit	11月13日	11月14日	前日比	10月14日	1ヶ月前比
BRL / JPY Spot	JPY	44,69	44,69	+0,00	44,57	+0,12
USD / BRL Spot	BRL	2,5888	2,6016	+0,0128	2,4003	+0,2013
USD / JPY Spot	JPY	115,77	116,29	+0,52	107,05	+9,24
Bovespa (ブラジル株価指数)	Index	51.846	51.772	-74	58.015	-6.243
CDS Brazil 5yrs (クレジットデフォルトスワップ)	bps	176,3	182,3	+6,0	159,2	+23,1
Brazil 10yrs Gov. Bond	%	12,90	12,93	+0,03	11,27	+1,66
DI Future Jan16 (金利先物)	%	12,57	12,53	-0,04	11,85	+0,68
3 Months US Dollar Libor	%	0,232	0,232	+0,000	0,229	+0,003
CRB Index (国際商品指数)	Index	264,6	266,8	+2,2	273,9	-7,1

これらのレートは各市場における終了時点の気配値です。実際のレート提示は弊行担当者までお問い合わせ下さい。

ドルレアルスポットチャート



レアル円スポットチャート

